

Αληθεια & Truth

いろはにほへど、ありもせぬもの。ひかりは光子かうしといふつとありつつも尚、電磁の波なみの壱派にあり。

光波といふ横波に様々な波長あれども、物質ものに当たれば、或る波長のものは吸収され、或る波長のものは叛射するといふ性を持つ。

亂叛射せし光線が網膜上の神経を、刺激し神経細胞に熾す化学反応の連鎖に因って受動者のうちにほしいまま、おまかせの塑像を架空さすにあり。それゆゑ、ものにいる在らずとふ。叛射する光波の波長、それら波長と波長との差異に因る内在解釈、是れただあるのみ。

いろにかぎらず、視覚みる聴覚きく嗅覚かぐと味覚あじはひ触覚ふるると、いずれも同じこの構造持つ。

是れを架空と難ずるじたい、これら空架塑像の仮象に基づき判ずる。その上に、ロジックとふ不可証の壱方法に於ひて為される推定解釈、乃至批判にしかざれば、ロジックの名に於ひて、脆弱の謗りを免れざるもの。

更にその上、是れ「ロジックは是か」とふロジックへの懷疑を孕み、ロジックに於ひてこそ矛盾すにあれ。すなはち、これらいつさい、球体のうち、堂堂廻りす円環の、反芻に若かず。

それを虚しとあはれむ念ひ、飽くまでもロジックに於ひて判ぜられるに若かず。されば、はてさて、奈何いかんせん哉かな。未遂不收。

いつさい、あたえられしもの。ただ、あたえられし。ただ、ただ。

さやう感ず。感じられるがまま、観ずる。さやう観ずる、しか為せず。他いかやうに在るべきや。げに粗ならざるや。

狂裂。

自由狂奔に裂す。〃かたちなく〃（すなはち、かたちなしとふかたちすらもなく。それ奈何や。一様ならず。眞中庸眞透明）、今見るがごとくあり。根拠理由原因原理経緯由来、いつさい、いらす。存りにけり。解釈あり得ず。

説明不能。理解不可能。考え及ばず、脳裡のうちにゑがくも叶はず、意識に爲せず。非

知、畢竟〃あらぬ (τό μη ον) ≡、又は空とふ哉。